



生後3カ月の子グマと同じ重さの人形も用意されました

元々ヒグマは臆病者!?

町内小学生がヒグマの生態学ぶ

1月23日、中央公民館で「くまプログラム」が行われ、町内の子供13人が参加しました。アソビバつべつの一環で行われた学習会には、NPO法人常呂川自然学校の羽根石晃彦さんを講師にヒグマの一生を描いた絵本を用いながら、ヒグマの食生活や体の特徴などについて、クイズ形式で理解を深めました。

子供たちは「最初は怖いと思ったけど、本当は人がいることを感じるとすぐ隠れるほど臆病なことを知った」「山に入るときはゴミを捨てたりしてはいけないと思った」と感想を語りました。会場にはヒグマやシカの毛皮や骨格標本なども展示され熱心に観察を行いました。



かんじきを履いてプレーを行います

北国の冬を元気に楽しもう！ 第7回子ども冬まつり

2月13日、津別小学校の小グラウンドで、津別・活汲・本岐各小学校のPTAがつくる実行委員会が主催して、第7回子ども冬まつりが行われ、大勢の子どもたちが訪れました。

会場には、北翔大学（江別市）が考案した雪上パークゴルフ「ゴルポッカ」や人気の氷柱だきつき、雪玉標的落としや長ぐつ飛ばしなど楽しいゲームがたくさんあり、子どもたちは元気にそれぞれの催しを体験していました。校舎入口前に設置されたテントには、焼き鳥やいもち、温かい牛乳やココアも用意されました。お昼にはお母さんたちが作ったカレーライスを食べ、北国の冬を楽しく過ごしました。



氷柱の冷たさに必死に耐えます！

北海道の冬を楽しむスポーツの大会が1月30日と2月7日に開催され、幅広い世代の町民が元気な姿を見せてくれました。

1月30日は、町民スケート大会が実施され小・中学生24人、一般20人が参加しスケートの腕を競いました。今大会では、町内学校の先生たちが参加し、一般団体競技に出場。子供たちは普段見ない先生たちの必死な姿に、大きな声援を送っていました。

2月7日には、悪天候の中、町民スキー大会が行われました。前日から続く積雪と強風で、なかなか進まないスキーを必死にこいでゴールを目指していました。



冬季スポーツの本番迎える！
町民スキー・スケート大会

townics

まちのわだい



「おには一そと、ふくは一うち」 園児による豆まきが行われました

2月3日、節分の豆まきが町内各施設で行われました。

津別保育所では、豆まきにまつわる由来について話を聞いた後、『おなかにおにがいる』という絵本を先生が朗読。読み終わると子供たちの前に鬼が登場。急に現れた鬼に驚いた子供たちは「おには一そと」と口にしながら一斉に豆を投げていました。中にはあまりの迫力に泣き出す子供もいたものの、鬼を退治した後は全員で豆を拾い、おいしく味わいました。



英会話交流会
英会話を楽しむ学ぼう

旭町の金田幸一さんが、交通安全運動に努められた功績により、北海道社会貢献賞（交通安全功労者）を受賞されました。

昭和56年8月1日、町から交通指導員として委嘱を受けてから長きにわたり、交通事故から町民の安全を守るため、交通指導員として街頭での直接指導や啓発活動にあたってこられました。

2月15日、町長室で佐藤多一町長より賞状並びに記念品が伝達されました。

「多くの先輩の支援があつて長く出来たと思います。今後も、体が続く限り頑張りたい」と感想を話されました。



交通安全運動の推進に貢献
北海道社会貢献賞を受賞

林野火災予防ポスター部門 前田さん（活小3）が優秀賞



前田さんは「絵を描くのは好きですが、大きな賞に入賞するとは思わなかったので、ビックリしました。とてもうれしかったです」と話してくれました。

入賞おめでとうございます。

2月17日、活汲小学校・校長室で、林野火災予防の普及啓発を目的に、全道の小学生を対象に実施されている作品展（ポスター部門）において、知事賞の優秀賞に入賞をした活汲小学校3年生・前田愛佳さんに、網走支庁産業振興部・山田恵二部長から表彰状と記念品の伝達が行われました。

参加者からは「簡単な運動でもすごく汗が出ました。つま先やひざを守る運動は普段やらないので参考になりました」と話しました。



座りながらできる筋力運動
健康運動教室が開催

2月3日、10日、17日の3回、津別町社会福祉協議会の会議室で、町民を対象にした英会話交流会が開かれました。

講師は、平成21年7月から津別町の英語語学助手として勤務しているアメリカ・テキサス州出身のゴールデン・グレゴリー・ブライアン（23歳）さん。

交流会には、小学生から大人まで予想より多くの町民が参加し、楽しく英会話を学びました。

参加者は「英会話に対して興味を持ちました」と話し、次の開催を希望していました。